

12月20日（金）

わたしが人間という身分になって、もっとつつましい境遇で誕生したとき、わたしの栄光は、わずかな人々以外には隠されていた。

ときおり、栄光が一条の光のようにわたしから輝き出ることがあった。とくに、わたしが奇跡を行いはじめてから一。

十字架につけられて命の終わりが近づいたとき、わたしは、父なる神のご計画に許された以上に、わたしの力を行使することはなかった。

そして人々から“お前の神としての力を見せてみろ”と挑発され、嘲あざけられた。

わたしはどの時点でも、わたしを救うために天使の軍団を呼び寄せることができたのだ。

殉教に直面している者が、そうしようと思えば自由の身になれるとしたら、どれほどの自制心が必要とされることだろう。

これはすべて、あなたが今、享受しているわたしとの関係を生みだすために必要なことだった。

栄光に満ちたわたしの存在を世界に宣べ伝えることで、あな



十弦の琴に合わせ豎琴の妙なる調べにのせて。

詩篇 92:4

【主】よあなたはあなたのなさったことで私を喜ばせてくださいました。あなたの御手のわざを私は喜び歌います。

詩篇 92:5

【主】よあなたのみわざはなんと大きいことでしょう。あなたの御思いはあまりにも深いのです。